

## 第1回船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会 会議録

開催日時：平成27年8月11日（水） 14時00分～15時30分

開催場所：船橋市役所本庁舎9階第1会議室

出席者：

（委員） 伊藤 賢二 船橋商工会議所 会頭  
杉田 修 船橋市 企画財政部長  
吉田 幸宏 株式会社 千葉銀行 常務執行役員 船橋支店長  
阿部 三也 一般社団法人 船橋労働基準協会 専務理事・事務局長  
小谷瀬 真弘 株式会社 時事通信社 千葉支局次長  
本木 次夫 船橋市自治会連合協議会 会長

（事務局） 政策企画課 大竹課長、竹田課長補佐、福田課長補佐、蕨主査、澤田主任主事、  
杉生主事

配布資料：

- （1）船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会設置要綱
- （2）船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会委員名簿
- （3）まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」
- （4）船橋市の人口動向分析
- （5）船橋市の将来人口推計
- （6）「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査結果・意見等
- （7）船橋市「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略」骨子案

### 1. 開会

#### ○杉田委員

我が国では人口減少、少子高齢化の進行が見込まれるなかで、国としては人口減少対策と地方創生で将来にわたる活力を維持していく事を目指している。昨年11月に施行されたまち・ひと・しごと創生法にもとづき各自治体で総合戦略および人口ビジョンの策定が進められており、本市でも平成27年度中に策定する。

本懇話会では、産業会、行政機関、教育機関、金融機関、労働関係、メディア、住民代表の方に委員としてご参加いただき、それぞれの経験や知見に基づくご意見をいただきたいと考えている。今後も船橋市が活力あるまちとなるよう皆様のご意見をいただきたい。

#### ○事務局

本懇話会は公開となる。本日は4名の傍聴希望があったので、ご入場願いたい。傍聴者は配布した傍聴に関する注意事項にしたがって傍聴をお願いしたい。

なお本日は、日本大学理工学部海洋建築工学科教授 櫻井委員は、都合により欠席である。

### 2. 議題

## 議題1 懇話会の設置趣旨について

### ○事務局

※ 「資料1 船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会設置要綱」、「資料2 船橋市まち・ひと・しごと創生懇話会委員名簿」にもとづいて説明が行われた。

## 議題2 国の目指す「まち・ひと・しごと創生」の概要について

### ○事務局

※ 「資料3まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」「総合戦略」、「資料4 船橋市の人口動向分析」にもとづいて説明が行われた。

### ○杉田委員

質問があれば、お願いしたい。

### ○小谷瀬委員

全国の人口が減少するなか、船橋市の人口が増加しているという説明があったが、具体的に人口増加の要因や、増加が顕著な地域等を示して欲しい。

### ○事務局

人口が増加している地域は、総武線沿線が中心となっている。船橋市は南北で差異があり、鉄道網が充実している地域の駅周辺地域を中心に増加している。社会増加の要因は、市民意識調査の住みよい理由等でも日常の買い物の便利さや、交通利便性があげられており、交通利便性の高い地域で人口が増加している。

### ○阿部委員

総人口の推移をみると、1970年代における人口増加が顕著であるが、この時期の増加要因は把握しているか。

### ○事務局

詳細な分析は行っていないため不確かな部分もあるが、高根台団地など公団の住宅開発が要因と思われる。

### ○吉田委員

今後、生産年齢人口が減少してくると思われるが、そういった観点の見通しなどは出ているのか。

### ○事務局

次の議題である将来人口推計において説明したい。

## ○吉田委員

晩婚化が進行しているが、船橋市の初婚年齢に関する統計はあるのか。最初の子どもを産む年齢が35歳以上の方が多くなっている。2人目、3人目を出産するためには早い年齢から産んでもらう事が必要と思われるため伺いたい。

## ○事務局

本市でも平均初婚年齢は30歳を超えている。詳細なデータは整理してあらためて提示したい。

### 議題3 将来人口推計と船橋市人口ビジョンの概要について

～市民意識調査・人口動向の分析結果～

### 議題4 船橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案について

## ○事務局

※ 「資料5 船橋市の将来人口推計」、「資料6 「まち・ひと・しごと創生」に関する意識調査結果・意見等」、「資料7 船橋市「人口ビジョン」「まち・ひと・しごと創生総合戦略骨子案」にもとづいて説明が行われた。

## ○本木委員

市民意識調査における住みよい理由は、どこの市でも同じような状況にあると感じられる。近隣市で条件が似ている柏市、松戸市、市川市との比較はしているのか。

また、船橋市の地域資源を考えると、とても良い条件を備えており、将来人口推計の4パターンのうち、将来展望②の人口想定も夢ではない。船橋市は多くの魅力的な地域資源を持ちながら活かしきれていないと感じている。

## ○事務局

策定にあたり、近隣市との情報交換は定期的に行っているが、人口ビジョン・総合戦略は他市も策定中であるため、情報が断片的となっている。人口推計も前提が異なる。例えば、市民希望出生率を本市ではアンケート結果にもとづき1.73としているが、他市ではアンケートをとらずに国に準じた1.8と置いている自治体もある。他市がどのような考え方に基づいて人口推計等を考えているかについて、今後情報交換をしていきたい。

ご指摘いただいたように葛南エリアの自治体は、どの自治体も生活都市としての利便性が高い。そのなかでも船橋市は鉄道の利便性が高く、働く場というよりも、生活がしやすいという事で選んでいる方が多い。

しかしながら、将来展望における合計特殊出生率を現状の1.39から15年後に1.73まで上昇させるのは大変な事であると認識している。1.73は、あくまで市民の希望であり、実現しない理由として、経済的な理由や健康上の理由が多くあげられている。初婚年齢が上昇している事もあり、0.1あげるだけでも簡単ではない。

さらに、現状の社会増加を途絶えさせないようにする事も重要であり、そういった観点では本木委員から指摘があったように市の地域資源を活かし、外部に対して魅力の発信を行うことで、

まずは来てもらい、さらに居住地として選んでもらう事を根気強く、戦略的に行っていく必要がある。

#### ○本木委員

社会増減の部分で高齢者の流出についての分析は実施しているのか。

#### ○事務局

資料4の7ページにあるように、どちらかという高齢者では社会増が多くなっている。詳細はこれから分析していくが、子どもの世帯が流入している事で、家族との同居などで高齢者も増加しているとみている。資料6の11ページの転出入のきっかけでも、60歳以上では住宅事情が多くなっている。

#### ○本木委員

高齢者は配偶者が亡くなってしまうと一人になってしまうため、子どもの居住地に転出してしまふことが多い。また、船橋市内に高齢者施設がないわけではないが、実感として遠方の施設に入居している方が多いように感じている。

#### ○事務局

高齢者層の分析は、市の建設局内で策定中の高齢者居住安定確保計画のなかでも実態調査を行っており、そちらの結果も踏まえて整理したい。

#### ○杉田委員

事務局から一通り説明をさせていただいたので、これから時間の許す限り、懇話会という事で自由に意見交換をお願いしたい。また、地方創生に関連して皆様が取り組まれている事例などもご紹介いただきたい。

#### ○本木委員

市民の84%が住み続けたいと回答しているように船橋市は決して悪いまちではなく、地域資源を活かせば更に住みよいまちになる。南には海があり、環境的にもラムサール条約登録を目指す動きもある。北には大きな開発地が栄えており、更に開発が可能な地域も残されている。

過去には海を活かしたまちづくりや、現在は船橋駅から臨海部の回遊性についても具体的に議論されており、そのような議論を活かしていけば良いまちとなり、住みたい人も増加し、今後も人口が増加する可能性はある。

#### ○杉田委員

臨海部の回遊性創出や、海を活かしたまちづくりは、総合戦略にも活かしていきたい。商工振興課では商工業戦略プランも策定中であり、これらの計画も今回の戦略に活かしていきたい。

## ○伊藤委員

2000年から船橋商工会議所の会頭を務めているが、人が減るなかでは市の経済が活性化しないという前提のもと、就任当初から人口問題に取り組んできており、商工会議所としては全国初の取り組みとなる「子育てゆうゆうふなばし推進委員会」を会議所内に設置した。

昔は仲人や親族の世話焼き人が存在したが、そういった日本の良き習慣がいつの間にか世の中から消えてしまい、結果として晩婚化につながっている。

公団住宅の建設に伴い昭和40年代に人口が急増しており、大型店が多数進出したこともあり、船橋商工会議所内にも大型店の協議会があった。「子育てゆうゆうふなばし推進委員会」の初代委員長は、船橋大型店連絡協議会の委員長でもあった「ららぽーと」の常務が就任した。委員長の働きかけもあり、市内の大型店では次々に大規模なキッズスペースが設置された。設立から13年経ち、こういった取り組みはムードとして船橋市の子育てのしやすさにつながっていると感じている。514ある全国の会議所のなかでも結婚・子育てに取り組んだ初の取り組みであったが、現在では200近い会議所で同様の取り組みが広がっている。ただし、現在の状況では、更に踏み込んで行政とともに活動する必要があると感じている。

婚活支援として、独身者交流会を行っている。従来は年齢を分けていなかったが、30歳を境として2つにグループを分けた。平成生まれの方も今年で27歳となっており、結婚して欲しい年代となっているが、船橋市をあげて平成生まれの方に対する結婚支援の取り組みをしてはどうか。

新たな事業に取り組む事はマイナスではなく、必ずプラスになると信じている。会頭に就任した当時の人口推計では船橋市の人口は平成27年ではピークアウトしていたが、現実的には今でも人口が増加している。

人口問題の解決に向けては何事も挑戦してみる事が大切。様々な切り口があると思うが、議論だけではなく、会議所も行政も何らかの取り組みを実施してみる事が大切である。

## ○杉田委員

転入アンケートでも、転入理由に子育てしやすい環境が上位にあげられており、会議所で行っていただいた事業の効果も結果として出ている。今後は婚活についても、行政も含めより体系的かつ横断的に取り組んでいく必要がある。

## ○吉田委員

金融機関の仕事として大きな取り組みの一つにビジネスマッチングがある。金融機関は全ての方がお客様であり、千葉銀行では本部の地域情報部などを中心に地域の情報をまとめている。

まず、営業店内の企業同士でマッチングを進め、出来なければ次に地域、県内と段階的にマッチングの範囲を拡大しながら進めている。より広域的な取り組みでは地方銀行が連携したフードセレクションや、海外店を活用した海外進出の支援なども行っている。地域内の事業者同士を結び付ける事業を大変重要視しており、アグリビジネス等の分野でも支援している。

また、雇用創出の面で重要となる企業誘致についても地域の情報を活用している。市内でも京葉食品コンビナートで立地が可能な用地がある。食品製造業に限定されるため、マッチングが難しい部分もあるが、新たな立地となれば200名以上の地域雇用が期待できるため、企業誘致の点

でも協力していきたい。

このような情報の蓄積を活用したマッチングについては従来以上に重視して取り組んでいる。

### ○杉田委員

地域の情報は行政としても共有していく必要がある。創業支援、雇用創出の点でも行政と金融機関の情報共有は重要となるため、連携を強化していきたい。

### ○吉田委員

千葉銀行では県内でも複数の市町村と包括連携協定を締結している。最近でも勝浦市、いすみ市、茂原市などと包括連携協定を締結し、地域活性化に向けて行政と直接的に連携している。

### ○阿部委員

所属する船橋労働基準協会独自の活動ではないが、厚生労働省では、ワーク・ライフ・バランスの活動を平成 18 年頃から本格的に進めている。

千葉労働局でも、市内で従業員の有給取得率が高い企業等を訪問し、成功事例紹介することで、過重労働を改善し、安心・安全な労働環境の構築を目指している。船橋市内でも先進的な事業者の取り組みを協会報で紹介する事で、他市からの転入の一助になればと考えている。

また、船橋市はごみ処理能力が高いため、周辺自治体に比べ分別が容易であるが、日常生活ではそういった小さな違いも生活のしやすさにつながり、居住先として選ばれる理由になっている。

### ○小谷瀬委員

時事通信社は全国、海外に拠点があり、私自身は島根県の松江、福岡、名古屋、大阪などにも赴任したが、市内の小中学校を卒業しており、船橋市の良さも十分にわかっている。

一般的に国の総合戦略の施策自体がぼんやりしており、はっきりしない部分もあると感じている。そこで、時事通信社では石破大臣へインタビューを行った。それによると、総合戦略は東京一極集中を是正する事が目的であり、高度経済成長時代に東京圏に流入した層が今後急速に高齢化する事を課題としていた。そのため、国は地方部への移住促進などの施策を打ち出しているが、船橋市は東京圏に位置しており立ち位置が難しい。国は、全体の人口は減少する前提で 2060 年に 1 億人維持を目指しており、人口減少を緩やかにしたいと考えている。

我が国は人口が多いため、利便性の高い交通インフラが整備されてきたが、今後人口が 1 億人程度に減少する社会を考えると、多くの人手に支えられている公共インフラの維持が難しくなる可能性がある。

住みたい理由や転入の理由で交通インフラの充実があげられていたが、今後見込まれる人口減少社会や在宅勤務の拡大の局面において、都市の魅力として公共交通機関の高い利便性だけに頼る事は問題がある。先程指摘があったように船橋市は自然環境なども都市の魅力であるため、こういった部分も伸ばしていく必要がある。

国が掲げている地方への本社機能の移転も現実的ではなく、大学等の教育機関が都市部に集中している以上、働く場としての東京圏の位置づけも変わらない。そのため、船橋市は東京のベッ

トタウンとしての競争力を維持する施策を展開していくべきである。

アンケートの転入理由にも、親や子どもがいる、知人・友人がいるという理由があったが、私自身が全国各地に赴任しているなかで、船橋市に居を構え続けている理由としては、仲間がいるという理由が大きい。小中学校時代の仲間と様々な活動をしているため、他の場所に住んでいても元々の地域に戻りたくなる。

小中学校の教育や地域活動を強化する事で、地域に仲間や友人がいれば、一時的に離れる事になっても将来的にその地域に戻る可能性があるため、今回の戦略でそのような取り組みを進める必要がある。また、大人になってからも、スポーツ、文化などの活動が可能な環境を整えることで地域とのつながりが出来て定住につながる。

公共交通機関の利便性だけに頼ったまちづくりは、人口構成が変わった際に同じようにインフラを維持出来るかなどの懸念があるため、ソフト的な取り組みも必要となる。

### ○杉田委員

東京一極集中の是正が国の方針であるなかで、船橋市の位置づけを考える必要がある。

ご指摘があったように、最近新幹線での事故が発生しているが、交通インフラも施設そのものの老朽化とともに、それを支える人材が減少する事も懸念される。そのため、現在の高い交通利便性の継続についての考え方は転換する必要がある。

意見をいただいた知人・友人との関係を重視するという点は非常に興味深く、今後、そのような考え方をする方は増えるのではないか。地方創生に絡み、自治体が同窓会を実施する例もある。船橋市で同様の取り組みをするかは別問題であるが、そのような取り組みは検討していきたい。

### ○伊藤委員

国では、地方創生として東京一極是正をうたっているが、現実の東京の姿をみると常に大規模な新規開発や再開発が行われており、現在の投資効果は少なくとも20～30年は継続する。かたや東京で大型開発が行われている現状のなかで、地方の活性化を論じるのが空しくなる部分もある。

そのため、船橋市では地道に最も効果が高い分野に注力していけば良いのではないか。

### ○杉田委員

東京一極集中是正は簡単ではないため、東京都市圏という位置づけのなかで船橋市ならではの戦略を打ち出していきたい。

### ○事務局

本日ご欠席された櫻井委員から事前に意見をいただいているため、一部を事務局から紹介したい。

(櫻井委員のご意見)

目指すべき将来の方向が一般的で、船橋の個性を感じない。船橋だから出来ること、近隣とは異なる船橋の特性を活かした方向性の記載を期待する。

人口の将来展望の2060年に63万4千人は夢のような数字である。推計①の59万3千人が妥当

ではないか。なるべく人口が増える想定で将来計画を考える方法は 20 世紀型である。21 世紀は人口減少を前提に、量より質を重視して、人口が多かった時代に出来なかった計画を前向きに考えていくべき。

今後 5 年間の総合戦略はもっと具体的な内容を表現出来ないか。例えば、2020 年東京五輪のキャンプ地を整備して外国チームを誘致する、アンデルセン公園を国内外に P R し子連れ観光客を誘致することなどが考えられる。

## 議題 5 その他

### ○事務局

今回は、国の目指す「まち・ひと・しごと創生」の概要や、現状の動向の紹介が中心となったが、次回は具体的な施策について議論できるよう準備していきたい。

自然の活用の点では、新たに整備する三番瀬海浜公園、ロコミサイトのトリップアドバイザーで話題となり、メディアでの取り上げが増加しているアンデルセン公園など多くの地域資源がある。船橋駅から臨海部の回遊性創出の計画についても、商店会連合会等とも連携して進めていきたい。

船橋市の交通利便性がアドバンテージである事は間違いないため、この強みがある内にご意見をいただいたソフト面の強化を図っていくことで市の魅力を向上させていきたい。

従来、行政では効果がみえにくい分野は取り組みづらかったが、今回のまち・ひと・しごと創生では、市民の希望をかなえるという観点で、今後こうなって欲しいという部分にも従来とは異なるお金の使い方も可能となる。

次回の懇話会では、今回説明した点を掘り下げるとともに、人口ビジョン、総合戦略の素案を提示し、ご議論いただきたい。

次回開催は 11 月 10 日（火）14 時からを予定している。

以 上